

エコアクション21
環境経営レポート
2023 年度版
(2023 年 4 月～2024 年 3 月)

岡野バルブ製造株式会社

2024 年 5 月 31 日発行

目 次

1. 事業の概要	
(1) 事業所名	3
(2) 代表者氏名	3
(3) 本社及び工場・営業所・事業所所在地	3
(4) 環境管理責任者	3
(5) 担当者連絡先	3
(6) 主な事業内容	3
(7) 事業規模	4
(8) 認証・登録範囲	4
2. 環境経営方針	5
3. 環境経営目標	
3.1 門司サイト	6
3.2 行橋サイト	6
3.3 出先サイト	6
4. 環境経営計画	7
5. 環境目標に対する実績	
5.1 門司サイト	8
5.2 行橋サイト	8
5.3 出先サイト	8
6. 環境活動計画の評価	
6.1 環境活動計画の評価	9
6.2 環境教育	10
6.3 5S 活動推進による職場の整理・整頓の実施	10
6.4 グループ内、グループ外応援の実施	10
6.5 内部監査	10
6.6 緊急事態対応訓練	10
7. 次年度の取組み	11
8. 環境関連法規の遵守状況の確認並びに違反、訴訟等の有無	12
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	12

1. 事業の概要

(1) 事業所名

岡野バルブ製造株式会社

(2) 代表者名

代表取締役社長 岡野 武治

(3) 本社及び工場・営業所・事業所所在地

本社	〒800-8601	福岡県北九州市門司区中町1番14号
行橋工場	〒824-0038	福岡県行橋市西泉4丁目4-1
営業所	東京営業所 大阪営業所	〒103-0001 東京都中央区東日本橋小伝馬町16-5 〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-18-5 石田ビル
事業開発拠点	X-BORDER KOZA	〒904-0004 沖縄県沖縄市中央1丁目15-14
事業所	九州事業所 柏崎刈羽事業所 福島事業所 東北事業所 北海道事業所 大阪事業所 浜岡分所 京葉分所 倉敷出張所	〒824-0038 福岡県行橋市西泉4丁目4-1 〒945-0016 新潟県柏崎市青山町小丸山3-1 〒979-0601 福島県双葉郡楡葉町大字波倉字細谷74-5 〒986-0856 宮城県石巻市大街道南5-2-2 〒053-0031 北海道苫小牧市春日町2-16-5 〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-18-5 石田ビル 〒431-1612 静岡県御前崎市佐倉3443-1 〒260-0834 千葉県千葉市中央区今井1-19 〒712-8044 岡山県倉敷市東塚5丁目14番36号

(4) 環境管理責任者

取締役 石田 仁

(5) 担当者連絡先

E A 2 1 事務局 加藤 宏幸

連絡先 T E L 0930-30-9002

F A X 0930-23-0022

E-Mail h-katou@okano-valve.co.jp

(6) 主な事業内容

火力発電、原子力発電等の産業分野へ納入する鋳鍛鋼弁及び鋳鍛鋼製品の設計、開発、製造、営業及びメンテナンス業務

(7) 事業規模

資本金 : 12億8,625万円

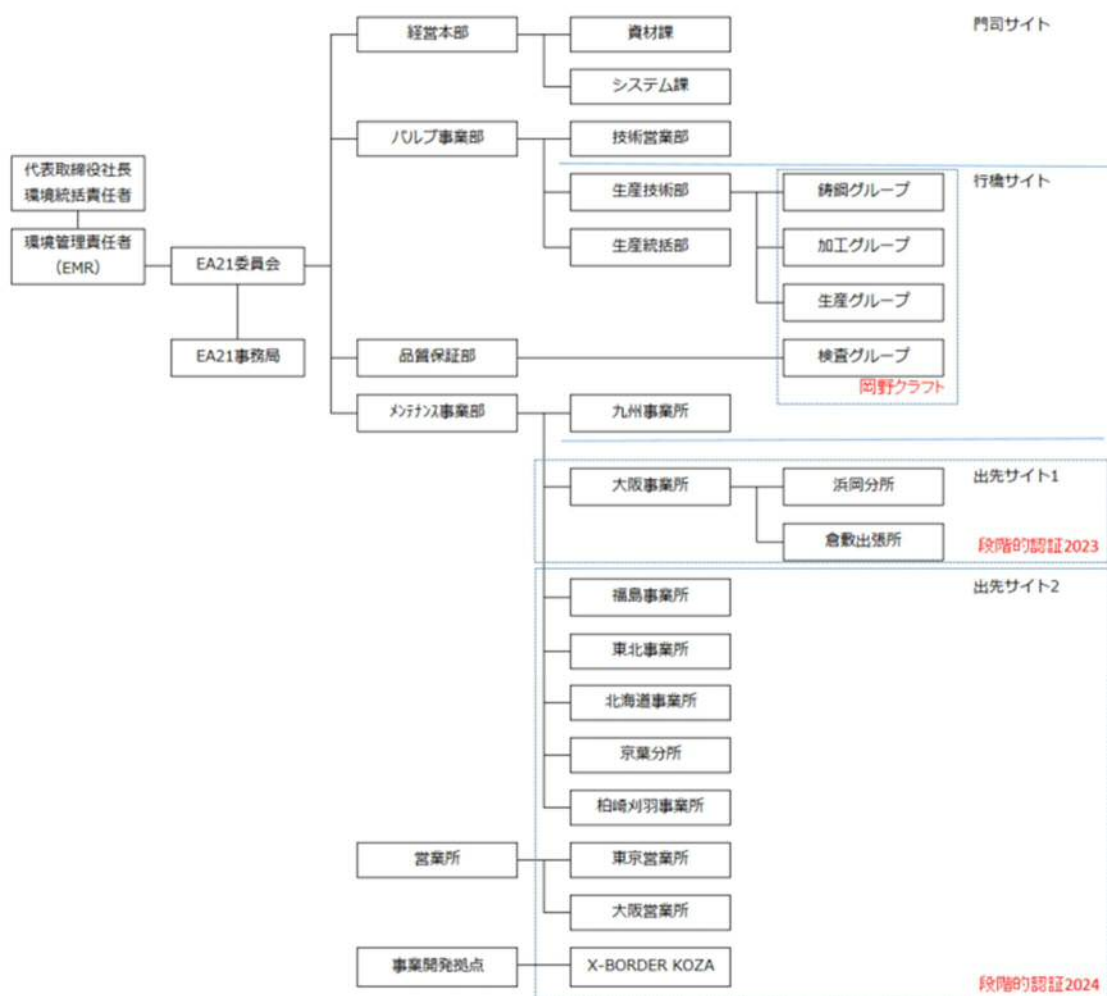
売上高 : 7,407百万円(2023年11月期)

従業員数 : 339名

(8) 認証・登録範囲

- ・ 本社・門司工場（以下、門司サイトとする）
- ・ 行橋工場（以下、行橋サイトとする）
- ・ メンテナンス事業部各事業所については下記の計画で段階的認証を行う。
（以下、出先サイトとする）

組織図及び認証・登録範囲（認証・登録範囲は下記）



所属又は役職	役割・責任・権限
代表者/環境統括責任者 (代表取締役社長)	会社の統括、環境経営方針の制定、環境活動への資源の準備、各サイト活動の評価と見直しの指示
環境管理責任者	全社の把握、環境経営システムの構築・運用、その状況を代表者（環境統括責任者）へ報告
EA21委員会	環境経営計画の遂行状況、環境活動に対する問題点協議、連絡事項等の社内への周知
EA21事務局	EA21環境活動における事務局業務（全社的な環境管理値の集計） EA21関連文書類の作成・維持・管理
門司 経営本部	①廃棄物の排出量管理、②リサイクル品管理、③電力、水の使用量管理、 ④社外的な報告書類の発行、産業廃棄物処理業者との契約及び管理
行橋 パルプ事業部	①廃棄物の排出量管理、②リサイクル品管理、③電力、水の使用量管理、
出先 メンテナンス事業部	①廃棄物の排出量管理、②リサイクル品管理、③電力の使用量管理、
全社員	環境方針を理解し、環境への取組を実践する

2. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

岡野バルブ製造株式会社は、発電設備向け弁類をはじめ、産業用高温・高圧バルブの素材開発から、設計、製造さらにメンテナンスまで含め一貫した生産管理体制のもとバルブのライフサイクルを通して、広く社会に貢献しています。

いま、地球環境の改善が人類共通の課題であることを認識し、当社も企業活動のあらゆる面において環境保全に配慮して、継続的に保全活動を推進します。

基本理念

岡野バルブ製造株式会社は、地球環境の改善が人類共通の課題であるとの認識のもと、環境負荷の低減に積極的に取り組み、地球環境の保全と改善に向けた活動を継続して推進します。

行動指針

1. 事業活動を通じて環境に与えている影響を把握し、環境経営目標及び環境経営計画を定めて定期的な見直しを行い、環境保全と改善活動を継続的に推進します。
2. 環境に関する法規制、条例、協定及びその他の要求事項を遵守し、環境負荷の低減と環境汚染の防止に努めます。
3. 環境に配慮した開発・生産・サービスによる省エネルギー、省資源を推進し二酸化炭素（CO2）排出量の削減に努めます。
4. 廃棄物の発生抑制・分別・再利用・再資源化を図り、廃棄物排出量の削減を推進します。
5. 水資源の有効利用のため、節水・水使用量の削減に努めます。
6. 化学物質の取扱いについては、安全データシート（SDS）に従って適正管理を行い、排出・流出による環境汚染の防止に努めます。
7. 5S活動を推進し、安全で快適な職場環境を構築します。
8. 環境負荷の少ない事務用品、作業用資材・副資材等のグリーン調達を推進します。
9. この環境経営方針を全従業員に周知するとともに、環境教育・啓蒙活動を実施し、環境保全に対する意識向上に努めます。
10. この方針は社外に開示します。

制定日 2015 年 2 月 9 日

改定日 2020 年 10 月 26 日

岡野バルブ製造株式会社

代表取締役社長

岡野 武治

3. 環境経営目標

各サイトの環境経営目標を以下に示します。

3.1 行橋サイト

環境経営目標 (数値目標及び活動目標)			単位	基準年度	環境経営目標			
				2022	2023	2024	2025	
				0%	3%	4%	5%	
数 値 目 標	1	二酸化炭素排出量の削減 ※2	Kg-CO2	2,300,208	2,231,202	2,141,954	2,034,856	
	①電力使用量の削減 ②軽油使用量の削減 ③灯油使用量の削減 ④A重油使用量の削減 ⑤液化石油ガス使用量の削減	①電力使用量の削減	kWh	3,879,686	3,763,295	3,612,764	3,432,125	
		②軽油使用量の削減	ℓ	2,122	2,058	1,976	1,877	
		③灯油使用量の削減	ℓ	150,890	146,363	140,509	133,483	
		④A重油使用量の削減	ℓ	55,250	53,593	51,449	48,876	
		⑤液化石油ガス使用量の削減	Kg	3,923	3,805	3,653	3,470	
	2	廃棄物総排出量の削減	Kg	364,416	353,484	339,344	322,377	
活 動 目 標	3	総排水量（使用水量）の削減	m ³	11,462	11,118	10,673	10,140	
	4	化学物質の適正管理 ※1		化学物質を適正に管理していることを定期的に確認				
	5	グリーン購入の推進、切替		新設計・新開発または資材等の調達時に随時実施				
	6	製品・サービスに関する事項		業務改善による工数削減での省エネ ※実施部署にて削減工数を設定				

3.2 門司サイト

環境経営目標 (数値目標及び活動目標)			単位	基準年度	環境経営目標			
				2022	2023	2024	2025	
				0%	3%	4%	5%	
数 値 目 標	1	二酸化炭素排出量の削減 ※2	Kg-CO2	207,101	200,888	192,852	183,210	
	①電力使用量の削減 ⑤液化石油ガス使用量の削減	①電力使用量の削減	kWh	452,143	438,579	421,036	399,984	
		⑤液化石油ガス使用量の削減	Kg	750	728	698	663	
	2	廃棄物総排出量の削減	Kg	1,780	1,727	1,658	1,575	
	3	総排水量（使用水量）の削減	m ³	1,173	1,138	1,092	1,038	
活 動 目 標	4	化学物質の適正管理		対象無し				
	5	グリーン購入の推進、切替		新設計・新開発または資材等の調達時に随時実施				
	6	製品・サービスに関する事項		業務改善による工数削減での省エネ ※実施部署にて削減工数を設定				

3.3 出先サイト 1

環境経営目標 (数値目標及び活動目標)			単位	基準年度	環境経営目標			
				2022	2023	2024	2025	
				0%	3%	4%	5%	
数 値 目 標	1	二酸化炭素排出量の削減 ※2	Kg-CO2	30,513	29,598	28,414	26,993	
		①電力使用量の削減	kWh	61,395	59,553	57,171	54,312	
		③灯油使用量の削減	ℓ	428	415	399	379	
		⑤液化石油ガス使用量の削減	Kg	13	13	12	12	
	2	廃棄物総排出量の削減	Kg	0	0	0	0	
	3	総排水量（使用水量）の削減	m ³	0	0	0	0	
活 動 目 標	4	化学物質の適正管理 ※1		対象無し				
	5	グリーン購入の推進、切替		資材等の調達時に随時実施				
	6	製品・サービスに関する事項		業務改善による工数削減での省エネ ※実施部署にて削減工数を設定				

3.4 出先サイト 2

出先サイト 2 に関しては 2024 年度でのサイト登録に向け目標値を設定しますが、実績値による評価は次年度より開始することとします。

環境経営目標 (数値目標及び活動目標)			単位	基準年度	環境経営目標		
				2022	2023	2024	2025
				0%	3%	4%	5%
数 値 目 標	1	二酸化炭素排出量の削減 ※2	Kg-CO2	113,456	110,052	105,650	100,367
		①電力使用量の削減	kWh	244,514	237,179	227,691	216,307
		③灯油使用量の削減	ℓ	1,701	1,650	1,584	1,505
		⑤液化石油ガス使用量の削減	Kg	17	16	16	15
	2	廃棄物総排出量の削減	Kg	0	0	0	0
	3	総排水量（使用水量）の削減	m ³	0	0	0	0
活 動 目 標	4	化学物質の適正管理 ※1		対象無し			
	5	グリーン購入の推進、切替		資材等の調達時に随時実施			
	6	製品・サービスに関する事項		業務改善による工数削減での省エネ ※実施部署にて削減工数を設定			

注）電気事業所別二酸化炭素排出係数：「九州電力の 2023（2022）年度の調整後排出係数：0.453kg-CO2/kWh を適用」

※1：4 項の化学物質使用量削減については、製造工程（塗料・溶接・燃料・潤滑油・ボイラー添加剤等）として使用しており製品の仕様等で使用量が決められているため、自らの判断で削減することが困難であることから、目標の策定は行わず、化学物質を適正に管理していることを定期的に確認する。

※2：二酸化炭素排出係数について、出先サイトは電力会社が複数にわたるため、九州電力の調整後排出係数を使用することで、行橋、門司サイトと統一する。なお、二酸化炭素排出係数は、九州電力の 2023 年度（2022 年実績）の調整後排出係数：0.453kg-CO₂/kWh を適用した。

4. 環境経営計画

3 項で掲げた環境目標を達成させるために取組む環境経営計画を以下に示します。

項 目	環境経営計画
電力使用量	1) エアコンの設定温度を決め、実行する。 2) 昼休みの消灯を行う。 3) 残業時の不要な照明の消灯を行う。 4) 長時間離席時、パソコンの電源を OFF する。 5) コピー機を節電モードに設定する。 6) 夜間・休日はパソコン・コピー機の主電源を OFF する。 7) エアコンフィルターの定期的清掃を行う。 8) エアー漏れの点検及び修理を行う。 9) 業務改善により作業時間短縮を図る。 10) LED 導入を検討する。 11) 不要電力消費抑制を行う。
軽油使用量	1) 急発進・急加速・急ブレーキを禁止し、省エネ運転を励行する。
灯油使用量	1) 暖房温度の適正管理を行う。 2) 長時間離席時は暖房を消す。
重油使用量	1) 暖房温度の適正管理を行う。〔行橋サイトのみ〕 2) 取鍋予熱の改善を図る。〔行橋サイトのみ〕
LPG 使用量	1) 溶接作業の効率化を検討する。 2) 切断作業の効率化を検討する。〔行橋サイトのみ〕
廃棄物排出量削減	1) Teams 活用によるペーパーレス化（電子化）を励行する。 2) 両面コピー、Nアップコピーを励行する。 3) 裏紙の使用を励行する。 4) 分別を徹底し、できるだけリサイクルする。
排水排出量削減	1) ポスターを掲示し、節水への意識付けを行う。 2) 水を流しっぱなしにしない。 3) 必要以上に勢いよく出さない。
化学物質	1) SDS を取り寄せ、使用上の注意事項を守る。 2) 使用量を管理し、必要以上に使用しない。
グリーン購入の推進	1) グリーン購入への切り替え品を検討する。
製品・サービス	1) 省エネ・省資源・廃棄物削減に繋がる活動を実施する。

5. 環境経営目標に対する実績

2023 年度（2023 年 4 月～2024 年 3 月）の各サイトの環境経営目標に対する実績を以下に示します。

5.1 行橋サイト

項目		環境経営目標		実績	達成率（％）	判定
二酸化炭素排出量	〔kg-CO2〕	2,231,202	2022年比 3%減	2,032,307	110%	○
電力使用量	〔KWh〕	3,763,295		3,519,990	107%	○
軽油使用量	〔ℓ〕	2,058		2,720	76%	×
灯油使用量	〔ℓ〕	146,363		110,012	133%	○
重油使用量	〔ℓ〕	53,593		54,660	98%	×
LPG使用量	〔kg〕	3,805		2883	132%	○
廃棄物排出量	〔kg〕	353,484		132,417	267%	○
排水排出量	〔m ³ 〕	11,118		5,396	206%	○
化学物質使用量		SDSに従い適正に管理した。				○
グリーン化商品購入		エコマーク商品を優先的に購入した。				○
（評価者：加藤）		行橋サイトでは5S活動で不要物の廃棄を励行しており、廃棄物排出量の削減は例年の活動の結果、対象物が減少したためである。				

※1 ○：目標達成 ×：目標未達

※2 二酸化炭素排出係数は、九州電力の 2022 年度調整後排出係数：0.453kg-CO₂/kWh を適用。

5.2 門司サイト

項目		環境経営目標		実績	達成率	判定
二酸化炭素排出量	〔kg-CO2〕	200,888	2022年比 3%減	179,086	112%	○
電力使用量	〔KWh〕	438,579		390,301	112%	○
LPG使用量	〔kg〕	728		750	97%	×
廃棄物排出量	〔kg〕	1,727		1,407	123%	○
排水排出量	〔m ³ 〕	1,138		1,114	102%	○
化学物質使用量		SDSに従い適正に管理した。				○
グリーン化商品購入		エコマーク商品を優先的に購入した。				○
(評価者：加藤)		LPGのみ目標を未達となったが、その他の項目はすべて削減できており、現在の活動を継続することで次年度以降も効果を拡大する。				

※1 ○：目標達成 ×：目標未達

※2 二酸化炭素排出係数は、九州電力の 2022 年度調整後排出係数：0.453kg-CO₂/kWh を適用。

5.3 出先サイト1

項目		環境経営目標		実績	達成率（％）	判定
二酸化炭素排出量	〔kg-CO2〕	29,598	2022年比 3%減	29,474	100%	○
電力使用量	〔KWh〕	59,553		62,757	95%	×
灯油使用量	〔ℓ〕	415		400	104%	○
LPG使用量	〔kg〕	13		14.4	90%	×
排水排出量	〔m ³ 〕	0		403	0%	-
化学物質使用量		SDSに従い適正に管理した。				○
グリーン化商品購入		エコマーク商品を優先的に購入した。				○
（評価者：加藤）		各事業所とも生産機能は有していないため、光熱費等がそのまま影響している状況。				

※1 ○：目標達成 ×：目標未達

※2 二酸化炭素排出係数は、九州電力の2022年度調整後排出係数：0.453kg-CO₂/kWhを適用。

6. 環境経営計画の評価

6.1 環境経営計画の評価

項 目	環境経営計画	評 価
電力使用量	1) エアコンの設定温度を決め、実行する 2) 昼休みの消灯を行う 3) 残業時の不要な照明の消灯を行う 4) 長時間離席時、パソコンを OFF する 5) コピー機を節電モードに設定する 6) 夜間・休日はパソコン・コピー機の主電源を OFF する 7) エアコンフィルターの定期的清掃を行う 8) エアー漏れの点検及び修理を行う 9) 業務改善により作業時間短縮を図る 10) LED 導入を検討する 11) 不要電力消費抑制を行う	LED 照明の導入や昼休み及び残業時の不要な照明の消灯、コピー機の節電モード設定を実施し、無駄な電力削減に努めた結果、目標を達成できた。
軽油使用量	1) 急発進・急加速・急ブレーキを禁止し省エネ運転を励行する。	ガソリン車廃止により稼働率が向上したため目標の達成には至らなかった。
灯油使用量	1) 暖房温度の適正管理を行う 2) 長時間離席時は暖房を消す	使用量の適正管理の周知徹底により、目標を達成できた。
重油使用量	1) 暖房温度の適正管理を行う 2) 取鍋予熱の改善を図る	取り組みには努めたが目標達成には至らなかった。
LPG 使用量	1) 溶接作業の効率化を検討する 2) 切断作業の効率化を検討する	不適合削減活動などにより、むだな補修溶接の頻度が削減できている。
廃棄物排出量	1) Teams 活用によるペーパーレス化を励行する 2) 両面コピー、Nアップコピーを励行する 3) 裏紙の使用を励行する 4) 分別を徹底し、できるだけリサイクルする	行橋においては、5S 活動の励行により廃棄物が増加してしまったが一時的なものと判断できる。
排水排出量	1) ポスターを掲示し、節水への意識付けを行う 2) 水を流しっぱなしにしない 3) 必要以上に勢いよく出さない	ボイラー試験対象製品の集約など、効果が確認できている。
化学物質	1) SDS を取寄せ使用上の注意事項を守る 2) 使用量を管理し、必要以上に使用しない	SDS に従い適正に管理した。 6 月に PRTR 対象物質の使用量届出を行った。
グリーン購入の推進	1) グリーン購入への切替え品を検討する	事務用品はカタログでエコマーク商品を優先的に選定し購入した。
製品・サービス	1) 省エネ・省資源・廃棄物削減につながる活動を実施する。	省エネ分野での案件受注、開発を推進した。

6.2 環境教育

環境活動の必要性やエコアクション21の概要、環境経営目標や環境経営計画などを教育し、各員の環境意識の向上を図りました。

6.3 5S活動推進による職場の整理・整頓の実施

職場の5S活動に取組み、職場内のレイアウト変更、整理・整頓を実施し、生産性の向上を推進したことで、作業時間短縮、残業時間削減を実践し、生産効率向上による省エネ効果が得られました。また、工場周辺の清掃の実施も定期的に行いました。

6.4 グループ内、グループ外研修、応援の実施

限られた人的資源の有効活用のため、繁忙職場への研修・応援を実施し、効率良い人員配置により残業時間削減を達成し、省エネ効果が得られました。

6.5 内部監査

各部署から候補者を選出して監査員教育を行って監査員として認定し、8月から9月にかけて内部監査を実施しています。

異なる部門がお互いに監査しあうことにより、環境保全に対する意識やエコアクション21の活動への理解がより一層深くなると考えられます。

6.6 緊急事態対応訓練の実施

業務上想定される事故や緊急事態を特定し、緊急時の手順書を作成して、緊急事態対応訓練を実施しました。訓練を実施することにより、万が一事故や緊急事態が発生した場合にも、迅速な対応が可能となり、環境への影響が最小限に防げるものと考えられます。

7. 次年度の取組み

7.1 環境経営目標

次年度の環境経営目標数値は、『2024 年度』版の環境経営目標にて定める値とします。
また、2024 年度は事業所についても正式に管理対象として取り組みを開始いたします。

7.2 環境経営計画

次年度に取組む環境経営計画を以下に示します。

項 目	環境経営計画	
電力使用量	1) エアコンの設定温度を決め、実行する。 2) 昼休みの消灯を行う。 3) 残業時の不要な照明の消灯を行う。 4) 長時間離席時、パソコン/モニターの電源を OFF する。 5) コピー機を節電モードに設定する。 6) 夜間・休日はパソコン・コピー機の主電源を OFF する。 7) エアコンフィルターの定期的清掃を行う。 8) エアー漏れの点検及び修理を行う。 9) 各部署で業務改善を行って作業時間短縮を図り、電力使用量を削減させる。 10) LED の導入検討。 11) 不要電力消費抑制を行う。 12) 遮熱シートなどの導入。	継続 継続 継続 徹底 継続 徹底 継続 継続 継続 継続 継続 継続
重油使用量	1) 暖房温度の適正管理を行う。	継続
灯油使用量	1) 暖房温度の適正管理を行う。	継続
軽油使用量	1) 急発進・急加速・急ブレーキを禁止し、省エネ運転を励行する。	継続
LPG 使用量	1) 溶接作業の効率化を検討する。 2) 切断作業の効率化を検討する。	継続 継続
廃棄物排出量削減	1) デジタル化推進によるペーパーレスを励行する。 2) 両面コピー、Nアップコピーを励行する。 3) 裏紙の使用を励行する。 4) 分別を徹底し、可能な限りリサイクルする。	徹底 継続 継続 継続
排水排出量削減	1) 水を流しっぱなしにしない。 2) 必要以上に勢いよく出さない。	継続 継続
化学物質	1) SDS を取り寄せ、使用上の注意事項を守る。 2) 使用量を管理し、必要以上に使用しない。	継続 継続
グリーン購入推進	1) グリーン購入への切替えを検討する。	継続
製品・サービス	1) 省エネ・省資源・廃棄物削減に繋がる活動を実施する。	継続

8. 環境関連法規の遵守状況の確認並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な法規制等を下表に示します。遵守状況を確認した結果、環境関連法規制の要求事項については全て遵守しており違反はありませんでした。

その他、関連機関や利害関係者からの違反指摘や訴訟等はありませんでした。

環境関連法規等の遵守状況

No.	法及び法令の名称	遵守状況	No.	法及び法令の名称	遵守状況
1	環境基本法	遵守	17	工業用水法	遵守
2	環境教育等による環境保全促進法	遵守	18	工場立地法（緑地）	遵守
3	循環型社会形成推進法	遵守	19	建設リサイクル法	遵守
4	公害防止組織整備法	遵守	20	資源有効利用促進法	遵守
5	大気汚染防止法	遵守	21	家電リサイクル法	遵守
6	水質汚濁防止法	遵守	22	フロン排出抑制法	遵守
7	下水道法	遵守	23	グリーン購入法	遵守
8	浄化槽法	遵守	24	廃棄物処理法	遵守
9	土壌汚染対策法	遵守	25	県産廃不適正処理防止条例	遵守
10	悪臭防止法	遵守	26	北九州市廃棄物条例	遵守
11	騒音規制法	遵守	27	化管法（PRTR 法）	遵守
12	振動規制法	遵守	28	P C B 特措法	遵守
13	福岡県公害防止条例	遵守	29	毒物及び劇物取締法	遵守
14	北九州市公害防止条例	遵守	30	核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律	遵守
15	消防法	遵守			
16	省エネルギー法	遵守			

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

- ① 行橋工場については大幅な削減が達成できていますが、生産量減少が一因と考えられます。生産量の増加後もその効果が維持できるよう十分に管理願います。
- ② 環境関連法規の改正については確実に調査し、対応漏れがないよう管理願います。
- ③ 緊急事態については十分な訓練を実施し、有害物質を外部流出させないことを徹底ください。
- ④ 今後も社員一人一人が二酸化炭素排出量削減等、環境への自覚をもって行動してください。
- ⑤ 設備の劣化などによる新規導入検討時は、よりグリーン購入を意識した取り組みをお願いします。特に環境改善の効果が高いと確認できるものは優先的に推進をお願いします。
- ⑥ 次年度は全事業所の登録完了に向け、全社を通した活動の推進をお願いします。